

# みなみあそ ダイアリー

## ネイチャーポジティブ 宣言を行いました



失われつつある生物多様性の減少を食い止め、自然を回復軌道に乗せる世界共通の目標「ネイチャーポジティブ（自然再興）」への取り組みを推進することを目的に、村は宣言を行いました。これは、県内自治体初の取り組みとなります。役場にて5月27日に宣言式が行われ、LOOPみなみあそでも5月30日に記念講演が開催されました。

阿蘇の壮大な自然に育まれた「水」「食」、そして私たちの「暮らし」を未来の子どもたちへ手渡すため、村は今後、最新技術も取り入れながら、世界に先駆けた「自然と共生する村」を目指して力強く歩みを進めてまいります。22ページの「教えて！村長さん」コーナーでも、この宣言に関わる内容について掲載しています。



宣言書を持つ太田村長（中央）と関係者

## 旭日双光章受章



役場にて、令和8年春の叙勲伝達式が行われ、荒牧俊一さん（東下田）が旭日双光章を受章されました。

荒牧さんは、平成15年から令和3年まで、5期17年9カ月、旧長陽村および南阿蘇村議会議員として在職。そして8年間にわたり、村議会議長を務められました。平成17年の三村合併の際は協議会の円滑な運営に尽力され、熊本地震発生後も復興実現に向けて熱心に取り組まれました。また、経済建設常任委員会委員や総務常任委員会委員、文教厚生常任委員会委員、復興・地方創生対策特別委員会委員などの要職も歴任され、村民や関係機関と連携し、村の発展に大きく貢献されました。

受章を受け、荒牧さんは「震災など大変なこともありましたが、村民の皆さんのために尽力した結果、こうして受章できて光栄です」と笑顔で話されました。



太田村長から褒状を伝達された荒牧俊一さん（写真右）

## 消防団入退団式・ 操法競技大会



村消防団入退団式・操法競技大会が白水小学校体育館と保健センター前駐車場で行われました。

入退団式では、退団者24人、新幹部・昇格新幹部52人、新入団者15人に辞令が手渡されました。退団者を代表して笠野真実副団長（栃木）が「村民の安全・安心を支える消防団員の皆さん、今後ますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます」と述べられました。

式終了後は操法競技大会が行われ、分団ごとに連日の練習の成果を発揮し、見事な連携と放水作業を競い合いました。優勝した第13分団と準優勝の第2分団は、7月26日に阿蘇市で開催される郡大会に、村代表として出場されます。

### 操法大会結果

- 優勝 第13分団（喜多・栃木）
- 準優勝 第2分団（白川）
- 3位 第3分団（両併）



優勝された第13分団

## 社会貢献活動を実施



総合建設企業の株式会社南陽建設（河陽）が国道325号と県道河陰阿蘇線の交差点周辺での道路清掃と、大畑川の除草作業を行いました。この活動は県の「ロードフリーンボランティア」および「くまもとマイ・リバー・サポート事業」に基づいて、道路や河川の環境美化を目的に定期的に実施されています。当日は30人が参加し、除草やごみ拾いを行った他、ひまわりの種を植えるなど約2時間にわたり作業に取り組みました。

同社は経済産業省が推進する健康経営優良法人認定制度において、中小規模法人部門の中から特に優れた上位500法人に与えられる「ブライト500」にも認定されており、今後も社会貢献活動を継続される予定です。



歩道のごみを拾う（株）南陽建設の社員

## 南阿蘇中学校 体育大会



南阿蘇中学校で体育大会が開催されました。今年度の大会スローガンは「協走熱望〜心は高め合う原動力〜」のもと、青団と黄団の白熱した戦いが繰り広げられました。両団譲らぬ接戦の末、今年は青団が優勝しました。



▲団長による選手宣誓

◀1年生の団体競技では、アンカーが二人三脚でゴールしました



## ちようよう保育園 園内消防大会



ちようよう保育園で園内消防大会が開催されました。この取り組みは、幼い頃から火災予防に関する知識を身に付けるとともに、消防の仕事への理解を深めてもらうため、毎年実施されています。

当日は、古澤玲奈園長から年長あかぐみの園児18人に、幼年消防クラブ員としての委嘱状が手渡されました。その後、通常点検やミニ腕用ポンプ操法の実演が行われ、園児たちは元気いっぱいに取り組んでいました。また、年中あお組の園児17人も「ちびっこ消防隊」の歌を披露し、保護者や消防関係者に成長した姿を見せてくれました。大会終了後には、阿蘇広域消防本部の職員による消防クイズや防火服の着用体験も行われ、園児たちは楽しみながら火災予防について学びました。



ミニ腕用ポンプ操法に取りかかる園児たち

ミニ腕用ポンプ操法で看護師役を務めた村上明里紗さんは「大きな声で声掛けができました。火遊びは危険なので絶対にしません」と話していました。

## コスモスに平和への 想いを託して



小学6年生が修学旅行で長崎を訪れるのを前に、今村四四郎さん(喜多)が白水小学校と南阿蘇西小学校で平和学習の講話を行いました。

1949年、旧長陽中学校の生徒が修学旅行で長崎を訪問した時に、被爆し重傷を負いながら被爆者の治療にあたった永井隆博士から生徒へ、コスモスの種が贈られました。今村さんも翌年長崎を訪れ種をもらい、以来、コスモスの種は村内に広がり、毎秋村内で美しい花を咲かせています。

当日、今村さんは「今、皆さんが毎日平和に暮らしているのは幸せなことです。戦争を再び起こさないことの大切さを知ってほしいです」と強い思いを述べられました。

最後に、児童代表で上田心愛さんが

「経験したことのない貴重な話を聞けて、修学旅行前に平和について学べて良かったです」と感想を話され、全員で校庭にコスモスの種をまいて平和を願いました。



今村四四郎さん(写真前列右から4番目)と白水小学校の6年生

## 税金の勉強をしました



久木野小学校で6年生を対象とした租税教室が開催され、阿蘇税務署と役場税務課の職員が講師を務めました。授業では、税金の仕組みや使われ方について学んだ他、通学用パスの購入費などを題材にしたクイズを通して、税金が身近な暮らしを支えていることを理解しました。また、1億円のレプリカが入った約10キログラムのスーツケースを持つ体験や、「税金のない世界」を紹介する動画の視聴も行われ、児童たちは楽しみながら税の役割や大切さへの理解を深めました。

児童からは「税金は暮らしを支えるために必要だとわかりました」「税金のない世界は不便だと思います」などの感想が聞かれ、有意義な学びの機会となりました。



講師の話に聞き入る6年生